



おもすの森

発行
大本山 本門寺根源
山務庁
富士宮市北山4965
電話 0544-58-1004

日蓮大聖人

御聖訓

『上野殿後家尼御前御書』

(弘安三年 九月六日)

南條七郎五郎殿の御死去の御事。人は生て死するならいとは、智者も愚者も上下一同に知て候へば、始てなげくべしをどろくべしとわをばへぬよし、我も存、人にもをしへ候へども、時にあたりてゆめかまぼろしか、いまだわきまへがたく候。

※参考…『日蓮聖人全集』



ゆめかまぼろしか

この文章は『上野殿後家尼御前御書』と呼ばれる日蓮大聖人の御遺文で、弘安三年(一二八〇)身延山に在られた大聖人が檀越である南條家へ与えられた御手紙です。

南條家の子息である七郎五郎が十六歳の若さで急逝したことをなげき「ゆめかまぼろしか、いまだわきまへがたく候」という有名な言葉をのこされています。

現代でも葬儀に際しこの一節を導師が諷誦することがありますので、耳にしたことがある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。生者必滅の道理を自らも承知しているし、人にも教えているけれども、七郎五郎の死に直面して「ゆめかまぼろしか」と悲しみを抑え切れない大聖人の様子が窺えます。

この御手紙を拝する時、『立正安国論』を手に国家を諫められた「強い」大聖人である一方、檀信徒の死に際しともに涙を流し、慟哭を隠さないやさしい人柄でもあられたたことを知るので。

年中行事(令和七年)

- ◎ 新年祝禱会 一月 一日
- ◎ 初御講会 一月 十三日
- ◎ 節分追儺会 二月 二日
- ◎ 日興上人会 二月 七日
- ◎ 春季彼岸会 三月 二十日
- ◎ 御霊宝御風入会 四月 十三日
- ◎ 垂迹祭 四月 二十九日
- ◎ 御大事御本尊会 七月 十九日
- ◎ 秋季彼岸会 九月 二十三日
- ◎ 御会式速夜法要 十一月 十二日
- ◎ 御会式正当法要 十一月 十三日
- ◎ 除夜の鐘 十二月 卅一日

その他の行事

- ◇ 春の清掃作業 三月 十四日
- ◇ お盆清掃作業 七月 中予定
- ◇ 修養道場 八月 中予定
- ◇ 会式清掃作業 十月 中予定
- ◇ 大掃除 十二月 中予定



新年祝禱会(二月一日)

令和六年大晦日、午後十一時五十分より鐘楼堂にて、一年間の煩惱を祓う為、また令和七年が安穏な年であります事を祈念し、三百人程の方々が列を成し除夜の鐘を撞きました。その後本堂にて令和七年乙巳歳の新年祝禱会を厳修いたしました。



寒さ厳しい中、去る年の反省と新年を寿ぎ、数多くの参詣者と共に御本尊様へ手を合わせ、新たな誓いを言上致しました。本年は久しぶりに重須孝行太鼓による奉納演奏が行われ、賑やかな祝禱会となりました。



今回より安全確保の為、鐘楼堂階段設置場所を変更すると共に、三光池が整備された事により、足元が良くなり、足元が良くなったと参詣者にも好評でした。境内では、重須孝行太鼓父母会の用意した温かい飲み物が参詣者に振る舞われました。お手伝い頂いた重

須孝行太鼓の皆様は厚く御礼申し上げます。

尚、近年鐘楼堂の老朽化が著しく、今後除夜の鐘を撞いて頂く為に修繕寄付金を募っておりますので、ご丹誠頂けます方は本山迄ご連絡ください。

初御講(二月十三日)

一月十三日、午後二時三十分より本堂にて新年はじめの日蓮大聖人御命日忌にあたり、初御講が厳修されました。

旭猊下御名代として鈴木春雄執事長御導師の下、末寺・法縁寺院各聖に御回向頂き、本山役員をはじめ参詣者と共に、生御影尊の御前に額づき御報恩の御題目をお唱えし、感謝を申し上げます。

又、新年のご挨拶の中で執事長より「七、八年後の令和十三年日蓮大聖人第七百五十遠忌・令和十四年御開山日興上人第七百遠忌をお迎えます。当山では、昨年の御会式時に末寺寺院

各聖に、報恩事業の協力をお願い致しました。

当山は、開闢七百三十有余年の法灯を継承しておりますが、近年、諸堂の老朽化が著しく、護持していく事が大変困難であります。つきましては今回、初御講を迎え檀信徒の皆様にも遠忌事業の趣意書を発送させて頂きませんが、是非、その趣旨に御賛同頂きますよう宜しくお願い致します」と述べられ、本門寺根源を後世に引継ぎ出来るようお願いされました。

石川講・渡井由緒家墓前回向

一月十一日十一時より令和六年鍵番の石川貴久家にて執事長御導師、並びに塔頭上人出仕のもと石川講が厳修されました。

当山では毎年正月に開基檀越である石川家先祖代々之靈位に対し追善の誠を捧げさせていただいております。尚、本年の鍵番は石川啓家となります。

また同日、日興上人に御給仕されたと伝わる渡井由緒家に新年の御挨拶、渡井家墓前にて御回向いたしました。

※鍵番：大切な御霊宝をお護りする蔵の番人として



第10回 清掃奉仕のお願い

3月14日(金) 午前9時～10時30分(雨天翌日)

今回の清掃奉仕は、3月の春彼岸を迎える為の道場荘厳であります。清掃奉仕によって共に汗を流し、自分自身の心の垢も一緒に流しましょう。そして、清らかな気持ちで仏様をお迎え致します。

＝持ち物＝

清掃用具・草刈り機・ブローアをお持ちの方はご持参ください。

燃料は本山で用意致します。



法華經に学ぶ 第三十回 布教伝道部 浦野 弘正

結縁衆②

前回の「結縁衆」のお話の続きから始めます。「五千起去」の時にお話しましたがお釈迦様が舍利弗さまにお願いされ、「では、一番大事な法華經の教えを説こう」と仰ったとき、その場を去った方々が五千人ほどいました。この方々は「法華經」という名前と「いわれ」までを聞いて、その場を去って行かれましたから、内容は把握していませんが、「法華經」という名前」に触れたことで、法華經と縁を結びました。後にこの方々は、『涅槃經』において、再び法華經の内容と出会って成仏の道を歩み始めますので、このような人々を「結縁衆」といい、四つを合わせて「発起・影響・当機・結縁の四衆」といいます。

日蓮宗の勧請でも「靈山虚空二処三会、発起・影響・当機・結縁の四衆」と、法要が始まるにあたってお出まし頂くようお願いをします。

無量義經から始まって法華經においては、この四衆が集まって、お釈迦様の周りにいらつしやるのがとても大事なのです。

此土六瑞②入定瑞

お釈迦様は無量義經をお説きになった後、結跏趺坐して無量義処三昧という瞑想に入っ

て、心も体も動かさず、禪定と呼ばれる心静かな状態に入られます。これを「禪定に入つた」という意味で「入定瑞」といい、此土六瑞の二番目に数えます。本文では「仏説此經已結跏趺坐入於無量義処三昧身心不動」「仏、此の經を説き已つて結跏趺坐し、無量義処三昧に入つて身心動じたまわす」の部分です。「結跏趺坐」とはあくらをかけた状態から、右足の甲を左ひざの上に、左足の甲を右ひざの上に乗せた座り方です。座禅の時にする足の組み方といえればお分かり頂けるかと思えます。

三昧(禪定)に入る意味

方便品第二の冒頭を思い出してみても下さい。「爾時世尊從三昧安詳而起告舍利弗」「その時に世尊、三昧より安詳として起ちて、舍利弗に告げたまわく」と始まります。お釈迦様はお説法を始めるにあたって、舍利弗さまを聴聞衆の代表として語るのですが、その時に、無量義処三昧という禪定を解いて、「安詳として」つまり心静かにゆつくりと立ち上がられ、お説法をなさるのです。

このあと詳しくお話しますが、序品の後半は、この此土六瑞と「他土六瑞(後述します)」が起こつた理由を、弥勒菩薩さまが文殊菩薩さまに尋ねる場面になります。お釈迦様は、このお二人のやり取りを聞き終えられ

た時、「まさに法華經を説くべき時が来た」と語り始められるのです。

お釈迦様は無量義処三昧に入つて、身心共に静かに瞑想されていましたが、眠られていたわけではなく、静かに時を待つていらつしやつたので、予兆として「入定瑞」と呼びます。

此土六瑞③雨華瑞と④地動瑞

お釈迦様が無量義經を説き終わり、禪定に入られた時、この世界に今までにないことが起こります。それが「雨華瑞」と「地動瑞」です。

天から曼陀羅華・摩訶曼陀羅華・曼殊沙華・摩訶曼殊沙華という四種類の華が、お釈迦様とお説法を待つ全ての人々の上に降り注ぎ、仏さまの世界に六種類の地震が起こつたというのです。

本文では「是時天雨曼陀羅華・摩訶曼陀羅華・曼殊沙華・摩訶曼殊沙華而散仏上及諸大衆」「是の時に天より曼陀羅華・摩訶曼陀羅華・曼殊沙華・摩訶曼殊沙華を雨らして、仏及び大衆に散じ」が雨華瑞、「普仏世界六種震動」「普く仏の世界、六種に震動す」が地動瑞を語っています。説法瑞と入定瑞がお釈迦様の状態を表す瑞相であるのに対して、この雨華瑞と地動瑞は、世界の様子を表しています。(続く)

『本門要軌』を読む 第二十九回

布教伝道部執事 阿部 和正

七 正行（口唱題目） 四十八頁

南無妙法蓮華經 数十百遍

前回まで御聖訓を順に従い拝読してまいりましたが、新年度からの本誌発行形態の変更に伴い取り急ぎ正行に移ります。繰り返しになりますが『本門要軌』では読経助行、題目正行と位置付けております。

これは第四十七世日幹貫首貌下曰く「本宗の妙行は、末法応時の行法であるから題目が正行で、読誦は助行である。」（『妙行聖典』一七五頁）。又『宗義大綱』には「先の正行、すなわち三大秘法の受持を離れて別に四種があるというわけではない。」（『宗義大綱読本』一二六頁）。宗祖も「今末法に入りぬれば余経も法華経もせんなし。但南無妙法蓮華経なるべし。」

（略）此の南無妙法蓮華経に余事をまじえば、ゆゆしきひが事也。（『上野殿御返事』『本門要軌』一〇八一—一〇九頁）と教示をされております。この御題目南無妙法蓮華経の実体は何でしょうか。これまでの復習になりますが、経文の『如来寿量品』では「此大良薬。色香美味。皆悉具足。汝等可服。速除苦惱。無復衆患」。「此の大良薬は色香美味皆悉く具足せり。汝等服すべし。速やかに苦惱を除いて復衆

の患いなけん」と。（『本門要軌』二七頁）

「是好良薬。今留在此。汝可取服。」

「是の好き良薬を今留めて在く。汝取つて服すべし。」（『本門要軌』二八頁）

「乃知此薬。色香美味。即取服之。毒病皆癒。」

「乃ち此の薬の色香味美きを知つて、即ち取つて之を服するに毒の病皆癒ゆ。」

（『本門要軌』二九頁）宗祖は「是好良薬とは寿量品の肝要たる名体宗用教の南無妙法蓮華経是れ也。」

（『観心本尊抄』定本七一七頁）と教示をされてい

ます。私達末法の衆生を救済する為、久遠の本佛が留め遺された大良薬好良薬が御題目であることが解ります。

同じく経文の『如来神力品』では「以要言之。如来一切。所有之法。如来一切。自在神力。如来一切。秘要之藏。如来一切。甚深之事。皆於此経。宣示顕説。」

「要を以て之を言わば、如来の一切の所有の法、如来の一切の自在の神力、如来の一切の秘要の藏、如来の一切の甚深の事、皆此の経に於て、宣示顕説す。」

（『妙行聖典』十八頁）「是故汝等。於如来滅後。应当一心。受持。読誦。解説。書写。如説修行。」

「是の故に汝等、如来の滅後に於て、应当に一心に受持・読誦し、解説・書写し、説の如く修行すべし。」

（『妙行聖典』十八頁）宗祖は「大覚世尊寿量品を演説し、然して後に十神力を示現して四大菩薩に付属したまふ。其の所属の法は何物ぞ。法華経の中に

も広を捨てて略を取り、略を捨てて要を取る。所謂妙法蓮華経の五字、名体宗用教の五重玄也。」

（『曾谷入道殿許御書』定本九〇二頁）、「日蓮は広略を捨てて肝要を好む。所謂上行所伝の妙法蓮華経の五字也。」

（『法華取要抄』定本八一五頁・『妙行聖典』八二—八三頁）と、久遠本佛が滅後の衆生の為に四大菩薩に付嘱された法

法二寿量品の教えを四句要法に結んだ肝要の法二御題目であることが解ります。

次に宗祖の聖訓には「釋尊の因行果徳の五字を受持すれば自然に彼の因果の功徳を譲り与へたまふ。」

（『観心本尊抄』定本七一—七二頁『妙行聖典』和四八頁）

「一念三千を識らざる者には佛大慈悲を起し、五字の内に此の珠を裹み、末代幼稚の頸に懸けさしめたまふ。」

（『観心本尊抄』定本七二〇頁『本門要軌』八六頁）と、本佛が末法衆生の為に大慈悲を起し、総ての悟りや功徳を御題目の五字七字に納められた事を明示されております。

これまでの佛様の経説・宗祖の聖訓から纏めますと御題目南無妙法蓮華経の実体とは、本佛が遺された色香美味の大良薬・好良薬であり、本佛の教えを結んだ四句要法であり、本佛が慈悲を起こされた一念三千の宝珠・釋尊因果の功徳であることを知

るのです。（続く）

ふれあい広場利用者 清掃奉仕

年末年始(十二月二十二日・一月五日)本門寺ふれあい広場を日頃利用されている地域の皆様と少年野球団北山スカイラークの子供たちが、感謝の為境内の清掃をしてくださいました。



清掃後、スカイラークの少年少女向け執事長より「今年は巳(へビ)年、へビは脱皮を繰り返して大きく成長していきます。皆さんが勉強に運動、そして人として一皮むけて大きく成長していくことを期待しています」と激励の言葉を述べられました。



寒空のもとご奉仕いただき誠にありがとうございました。地域の皆様、北山スカイラークのみなさんの益々のご精進とご活躍をお祈りいたします。

防火点検

一月二十三日に東京電力様立ち会いのもと漏電検査、翌二十四日に富士宮市消防本部職員様立ち会いのもと消防設備立入検査が行われました。

当山は日蓮大聖人御真筆・日興上人御真筆の御宝物を数多く格護しております。先師がご護りしてくださった信仰・伽藍、そして七百年以上続く本門寺の歴史を未来へ繋いでいくため、防火の意識を持続していきま



す。乾燥の続く気候となっており、皆様のお宅におきましても火の用心ください。

寄贈 方丈ソファ

この度、塔中蓮行坊坪井友宏上人より、方丈に常設してありましたソファを新しく寄贈して頂きました。厚く御礼を申し上げます。



御廟所石橋 滑止め

昨年、本源寺本間健司上人が、本山での継承御本尊授与式に御登山された折、総代様らと御廟参拝途中の本門寺堀石橋が大変滑りやすくなっていることを心配されました。



後日、本源寺総代の竹川将樹様が石橋及び階段の滑止め加工の施主となって頂きました。表面の石を加工することで滑りにくくなり、足元が安定し雨に濡れても安心して歩行ができます。御丹誠に厚く御礼申し上げます。

身延山 新年参拝

一月十二日(日)、身延山御頭講会に際し、前日に本門寺を代表して鈴木春雄執事長が日蓮大聖人祖廟に参拝されました。

その後久遠寺諸堂にお参りされ、読経回向を申し上げ、浜島総務様に新年のご挨拶を申し上げます。

京都要法寺 本葬

二月四日(火)、京都要法寺第五十二世丹治日遠上人(令和六年九月二十三日世壽八十四歳)本山葬が執り行われ、当山より鈴木春雄執事長が御回向に伺いました。衷心より日遠上人増圓妙道をお祈り申し上げます。



護山志納金の報告

護山志納金をお納め頂き、厚く御礼申し上げます。左記に掲載し、ご報告申し上げます。

- 令和六年 十二月志納
- 藤崎 市 本照寺 様
- 富士宮市 本源寺 様
- 令和七年 一月志納
- 神奈川県 常在寺 様

教学研修会 開催

一月二十四日(金)、日蓮大聖人第七百五十遠忌・日興上人第七百遠忌慶讃事業の一環として、末寺・興統法縁会・重須会教師向けの教学研修会を開催致しました。

三輪是法先生(立正大学仏教学部教授)に御講義頂きました。前回に引き続き第七講『法華経の行者日蓮(姉崎正治著)』を解説頂きました。



次回、第八講は

二月二十八日(金)

を予定しております。

本間俊文先生の第八講は

二月二十日(木)

を予定しております。

是非、聴講お願いします

常圓寺 団参

一月七日(火)、東京都

目黒常圓寺様(古河良啓上市圓妙寺様(田中堯舜上人)団体参拝がございました。二十一名の皆様にご参拝頂きました。境内ご案内しました。三十一名の皆様にのち、生御影尊の御開帳が行われました。その後、本尊の御開帳が行われ、門寺の縁起の御説明がございました。



圓妙寺 団参

一月十二日(日)、富士

御本堂におきまして、各御霊位の御回向を申し上げました。



新寂回向事務局より

御本堂におきまして、各御霊位の御回向を申し上げました。

- 養仙坊 故 石田 静子様
- 久成寺 故 橋本 ミチエ様
- 久成寺 故 杉山 朱美様
- 久成寺 故 吉野 ちゑ子様
- 久成寺 故 滝口 次雄様
- 西之坊 故 堀内 正 様
- 蓮行坊 故 山田 良子様
- 蓮行坊 故 望月 幸子様
- 蓮行坊 故 井出 保榮様
- 蓮妙寺 故 宮代 任浩様
- 蓮妙寺 故 光森 達雄様
- 久成寺 故 細谷 文一様
- 久成寺 故 功刀 政則様
- 久成寺 故 鎌田 久子様
- 久成寺 故 土屋 雪子様
- 久成寺 故 勝又 トク様
- 蓮行坊 故 齋藤 克己様
- 宗川寺 故 杉山 安広様
- 宗川寺 故 平野 正芳様
- 宗川寺 故 山崎 桃子様

二月四日迄申込み・申請順
ご冥福をお祈り申し上げます

個人参拝

昨年十二月二十二日(日)、埼玉県ナイスメタル株式会社代表取締役 今野正文様が当山に令和六年の御礼参りに日蓮大聖人生御影尊の御開帳をお受けになられました。また、会社が大きな事業を無事完遂した事をご報告し、ご本尊様のお導きに感謝されました。



本門寺の主な予定

令和七年二月
十四日 重須婦人会清掃奉仕
二十日 本間俊文先生勉強会
二十七日 興統法縁会常任理事会
二十八日 重須婦人会清掃奉仕
二十八日 三輪是法先生勉強会
令和七年三月
二十日 春季彼岸会法要

丹精者 御芳名

香華・その他 供養

北山 養仙坊 様

おもすの森賛助金

山宮 遠藤 勝己 様

寄贈 方丈ソファ

北山 蓮行坊 様

境内整備

麓 竹川 将樹 様

献花

北山 星谷とみ子 様

諸堂・境内清掃・作業奉仕

本門寺内 重須婦人会 様

塔中 寺庭婦人 様

本門寺内 石川由緒家 様

北山 望月 正見 様

静岡市 紺文シルク 様

謹んで御礼申し上げます